

令和7年度(2025年度)東京都NIE推進協議会 高校部会 月例実践報告

(2025.09.12.日本プレスセンター)

多角的な活用へのチャレンジ

～校種・分野を超えるNIE～

十文字中学・高等学校 公民科教諭 浜 彰史

(日本新聞協会認定 NIEアドバイザー)



1 本校について

①1922年（大正11年）創立

豊島区の大塚・巣鴨の中間点に位置。創立103年

②校歌のことば＝建学の精神

「身をきたへ 心きたへて

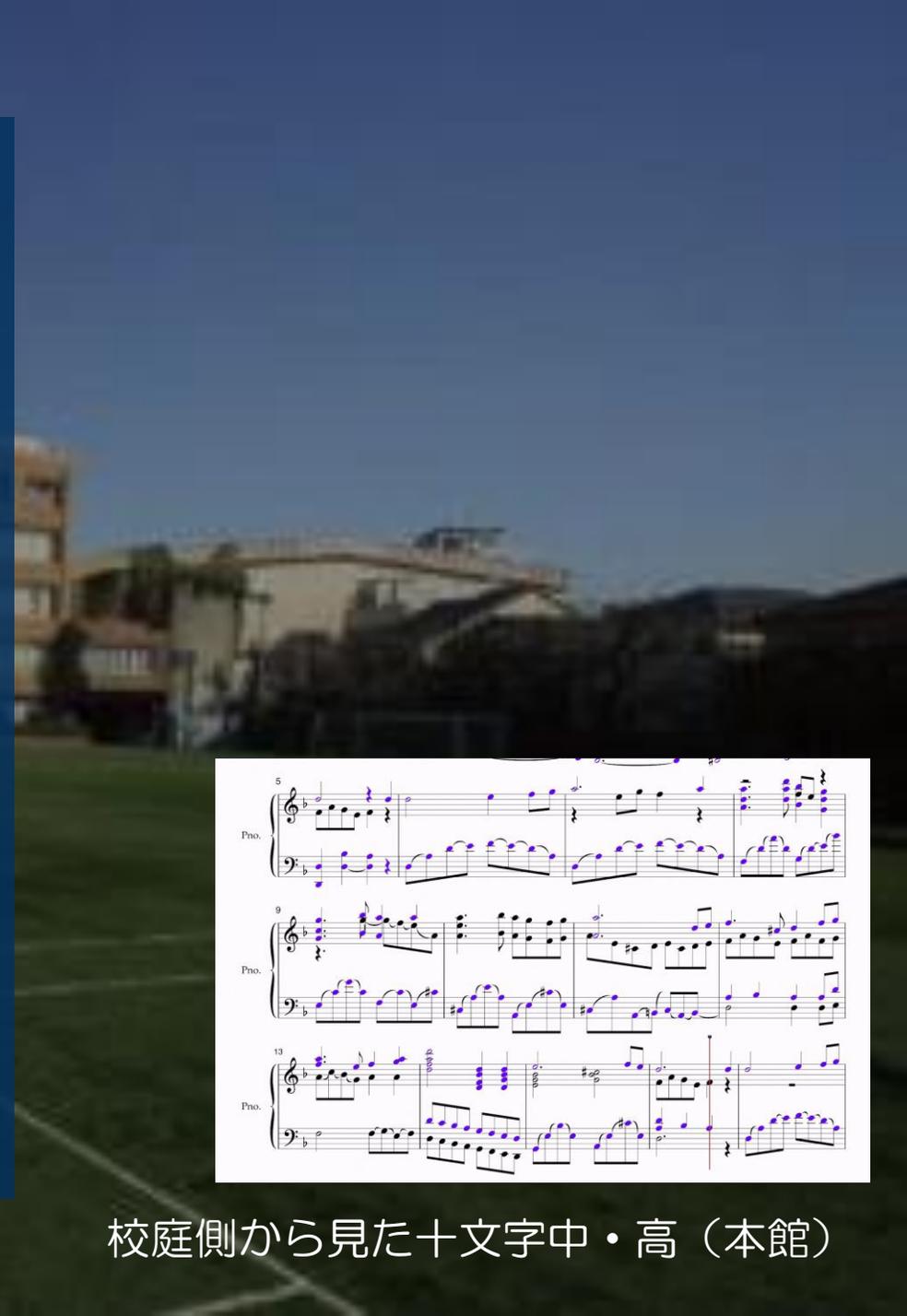
世の中に 立ちてかひある 人と生きなむ」

③全国クラスの部活動

（水泳・サッカー・マンドリン・バトンなど）

④高校「自己発信コース」1期生が今春卒業

25年3月卒業生の海外大学進学は、のべ10名



校庭側から見た十文字中・高（本館）

1-2 実践者プロフィール①

- ①1979年 埼玉県与野市（現・さいたま市中央区）生まれ
- ②放送委員会では昼休みの**校内放送**で「電波ジャック」
- ③進学した一貫校は、ふんどし水泳の「スパルタ教育」
- ④中学校では吹奏楽部・高校では合唱部・大学は吹奏楽部
- ⑤漠然と、「**アナウンサーになりたい**」と考えていた
 - ▶1995年日本シリーズ・第3戦の実況に感動
 - ▶憧れの人物は「逸見政孝・福澤朗・安住紳一郎」
- ⑥1998年 埼玉大学教育学部（中学・社会専攻）に進む
 - ▶1999年全日本吹奏楽コンクール大学の部 銀賞
- ⑦学習塾・高校非常勤講師を経て現職（2007年～）
 - ▶**NIEとの関わりは、「まだ、まったく、ない。」**

高校3年のころ、所属した草野球チームで発行していた機関紙

草野球

新監督

代行1年

シンケイスポーツ

1-3 実践者プロフィール②

- ①2008年 中学新聞部（ニ委員会）顧問を任される
 - ▶ **新聞編集**に長く携わる先生がたから、編集のイロハを教わる（段組み・ハラキリ・X型配置など）
- ②2014年 前任のNIE担当教員が「切り抜き」を指導
 - ▶ 優秀賞を受賞した（直後に「NIE拒否事件」発生）
- ③2019年 **修学旅行パンフ**制作で初の実践発表
- ④2021年 高3「教養社会」担当となる（～現在）
- ⑤2022年 参院選啓発実践が**テレビ放映**（TOKYO MX）
- ⑥2023年 「東京新聞 **切り抜き**」にて優秀賞受賞
- ⑦2025年 「**いっしょに読もう**」300作品チャレンジ
 - ▶ **NIEは、「急に飛び込んできた」相棒的存在となった**



沖縄修学旅行オリジナルマーク
(原案は2019年制作)

THE
UNFORGETTABLE
MEMORIES



2-1 「ふつうの」NIE

- ①実施授業：高校「公共」（高校1年・2単位）
高校「政治・経済」（高校2年・2単位）
高校「自己発信 公民系」（高校2年・4単位）

②実践例（2025年度）

- ▶夏休み課題として「**いっしょに読もう！新聞コンクール**」
に参加。今年度、はじめて**学年全体で実施可能**になった
- 従来の「新聞レポート」の代替手段
 - 学校教員による評価の手間を軽減
 - 良い作品は、外部から表彰される可能性も



2-2 新聞コンクール

①最初は、授業と並行して実施することは難しかった
(高校公共は2単位。通常授業だけでも手一杯)

②まず、本校・自己発信コースで展開されている授業
「社会科学・公民系(4単位)」で始めた

③本年度から、1学期中間試験が廃止された

▶ 期末試験が6月最終週に繰り上げ

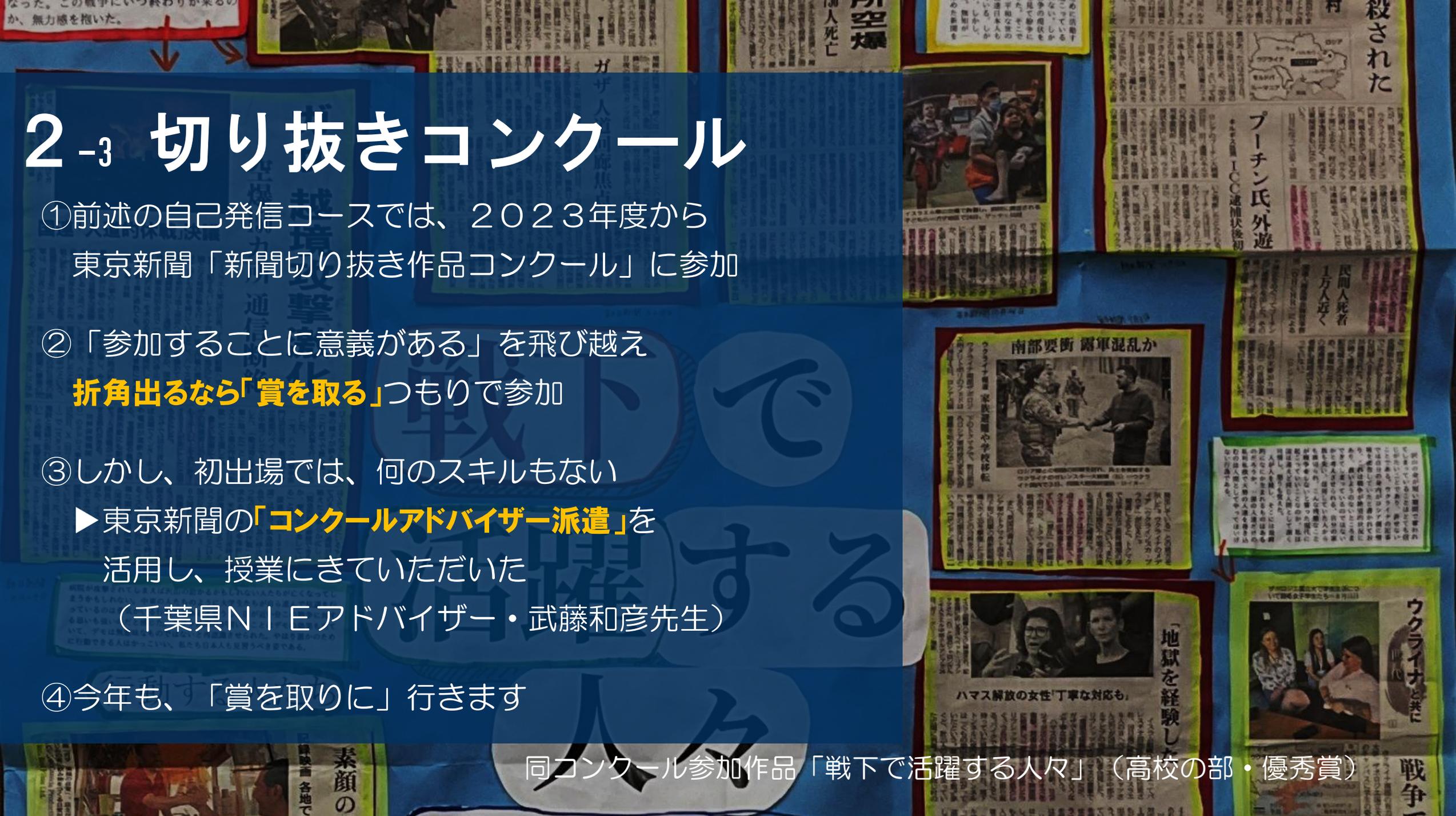
(7月の授業では、空き時間を担当者とのTTにして
ガイダンスを実施した)

「いっしょに読もう！新聞コンクール」記事探し

2-3 切り抜きコンクール

- ①前述の自己発信コースでは、2023年度から東京新聞「新聞切り抜き作品コンクール」に参加
- ②「参加することに意義がある」を飛び越え**折角出るなら「賞を取る」**つもりで参加
- ③しかし、初出場では、何のスキルもない
▶東京新聞の**「コンクールアドバイザー派遣」**を活用し、授業にきていただいた
(千葉県NIEアドバイザー・武藤和彦先生)
- ④今年も、「賞を取りに」行きます

同コンクール参加作品「戦下で活躍する人々」(高校の部・優秀賞)



2-4 継続へのポイント

① 最初から広くしようとしない

- ▶ まずは、自分の担当だけで実施できれば、そこから
- ▶ 他の担当者に授業を見てもらったあと（TTなど）共同で授業展開する

② 難しいことは、外部から助けをもらう

- ▶ 各都道府県のNIE推進協議会で月例会で実践を共有（いつでも参加できます）
- ▶ アドバイザー・新聞記者の派遣も積極的に活用
- ▶ 保存用の箱は進路部に依頼（「スタサポ」がベスト）

授業への新聞移動で大活躍する台車（耐荷重300kg）

3-1 主権者教育×NIE

①国政選挙・地方選挙・首長選挙のある年には

「実習系」授業でNIEを展開する

②主な方法

- ▶その年次に合ったテーマを設定し、ポスター制作・プレゼンなどで**アウトプット**する
- ▶リソースとして、**デジタル新聞**サービス・**実践校に配達される紙媒体**を利用
- ▶完成した成果物は、昇降口などの**目立つところに掲示**

3-2 参院選啓発かるた

①実践授業：高校「教養社会」（高校3年・選択者）

- ▶ 大学入試で地歴科を選択しない生徒が主な対象
（体育・芸術または2科目型の人文社会系）

②今年度は、5名の「精鋭」たちが経験を積んでいる

- ▶ 6月実施「台湾大学交流フェア」にて開会式の司会
校内ガイダンス（英語で）
- ▶ 参院選について、**50音すべてを目標**として
「選挙ワード」を読み札にして制作した
（リソースはデジタル新聞・総務省HP ほか）



公職選挙法の用語を、七夕の笹に見立てて装飾

3-3 参院選ポスター制作

①実践授業：高校「社会科学・公民系」
(高2・高3 自己発信コース)

②授業の概要

- ▶ 「**特集・レジェンド参院選**」 (高2)
戦後、政局に影響を与えた参院選について調べ
現在との類似点・相違点を発表
- ▶ 「**地方に住みます 参院選シミュレーション**」 (高3)
自分の居住地とは別の都道府県に住んだと仮定し
選挙公報を読み、誰に投票するかをまとめる

3-4 選挙×NIEの「コツ」

- ①参院選実施年度には「**何か必ずやる**」と決めておく
 - ▶年度初めのシラバス作成に組み込めるかを参院選の場合はあらかじめ決めやすい
 - 1学期の終わりにかけて、無理のない範囲で少しでも時間を割いてみることで、何かが始まります
- ②推進協議会を通じて（または直接）**メディアを呼ぶ**
 - ▶または、新聞記者・テレビクルーと意見交換して、授業アイデアが思い浮かぶ場合もあります



2022年7月 参院選前日に 高3各クラスで投票を呼びかけ

4-1 テレビっ子の徹底探究

② 「1980年代 テレビ番組探究」 主な手法

時代・ジャンルを特定し、
過去を知るための情報リソースに辿り着かせた

▶ テレビ欄を「復刻」する

スプレッドシートに枠を作成し、配信
文字を転記するだけでも数時限かかった

▶ 「その時代を生きた証人」にインタビュー

ポスターに掲載する記事の一部に
実際に視聴した方の感想・意見を採り入れた

▶ QRコードで当時の動画にリンクする

3枚目 618頁

EXTRA

10 1980年代テレビ人物探究

□ (人物名)

写真

(1) 人物プロフィール

(2) 年表・経歴

(3) テーマ番組との関係性
その人を選んだ理由

(4) この人物の
現在における
活躍・影響

(5) まとめ
編集後記

4-3 世代を超えたエンタメ

③テレビ番組探究・本年度の進捗

A 「教養社会」と「社会科学公民系」の**コラボ**

▶自己発信コースは、制作の上級者であったため
企画を増やし、内容を濃くした

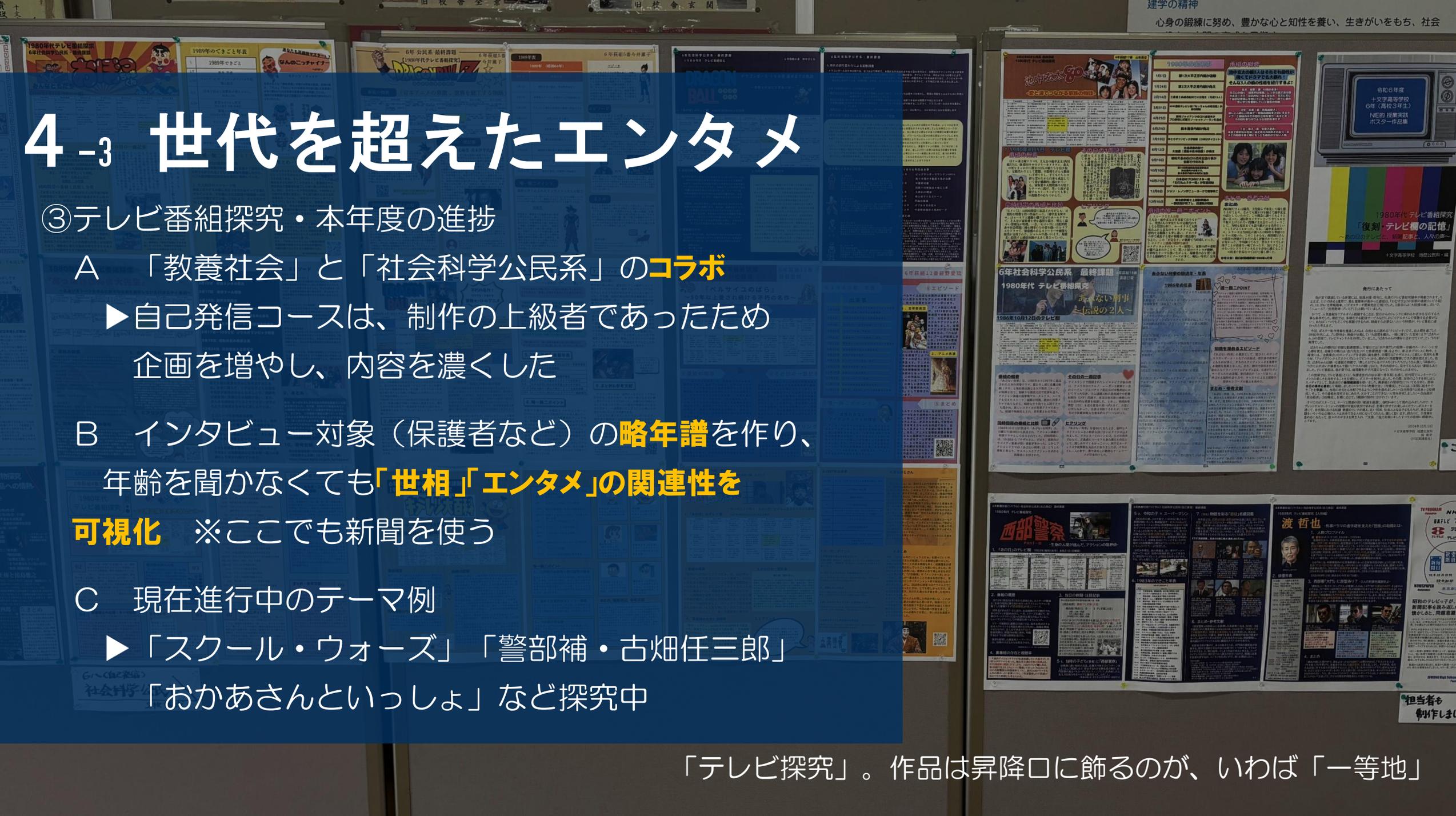
B インタビュー対象（保護者など）の**略年譜**を作り、 年齢を聞かなくても「**世相**」「**エンタメ**」の**関連性**を

可視化 ※ここでも新聞を使う

C 現在進行中のテーマ例

▶「**スクール・ウォーズ**」「**警部補・古畑任三郎**」
「**おかあさんといっしょ**」など探究中

「テレビ探究」。作品は昇降口に飾るのが、いわば「一等地」



5-1 本校受験生にもNIE

「**オープンスクール**」社会科アトラクションの実施

①2024年度、本校入試広報から

「夏休み中に、新聞で探究できる体験授業できますか」

「小学校中学年～高学年を対象に」

「…はま先生を見込んでお願いします」

とのオーダー発生。

②全く白紙の状態から始めた企画が、

「1冊（1部）の新聞から、クイズを数問出題」し、

新聞のあらゆる面を探検する「新聞クエスト」でした。



2024年探究型オープンスクール「社会科新聞探究」

6 ここまでの振り返り

【収穫】①**主権者意識**を高めることができた

(政治のニュース・候補者情報を注視できた)

②**学年単位**にまで活動を拡大できた

③各種**メディア**による取材

(2025年は「新聞ダイジェスト」・産経新聞掲載)

【課題】①新聞が**本当にリソース**となっているかどうかは…。

②成果物の**PR不足** ▶ 認知度の低さは課題

③大学など、**教育機関との連携**

2025年度オープンスクールの準備風景

7 おわりに

初めて「NIEをやってみないか」と言われたとき、
激しく拒絶しました。しかし、2019年度に出席した月例会で、
修学旅行のオリジナルパンフレットを見せたところ、
「浜さん、これ、授業で全部作ったの？すごいな」と言われ、
自分の取り組みが評価された、と視界が開けた思いがしました。
これまでの背景から、他の教員には「無理強い」していません。
ただ、自分に対する評価が「狭い」ものになりやすい世界で、
他校の先生と情報共有できる貴重でな場であることは確かです。
研究論文の書けるようなNIEにも憧れますが、しばらくは、
「おっ、やってるね。見ていくぜ」と気軽に立ち寄りことのできる
NIEスポットの1か所でありたいと考えております。【終】

